



消防団たずね歩き

北消防団長尾支団のキラリと光る新入団員紹介

長尾の地名の由来は「ながお」すなわち、長峡で二つの低い山並みが並行して、長く尾を引く間に開かれたところといわれています。

そのような由来がある長尾町は三田市、三木市吉川町に隣接する北神地域の北部に位置し、昔は農村地域でしたが、近年開発が進み今では遠方からバスや自家用車で買い物に訪れる大型店舗（神戸三田プレミアムアウトレット）を中心にさまざまな大規模物品販売店が立ち並び北神地域の商業地域となっています。

そのような地域を守るのが北消防団長尾支団で、総員97人の精鋭が地域住民のあんぜん・あんしんのために昼夜を問わず火災や災害防御活動に従事しています。

7月1日（日）長尾町公園において長尾支団と共に地域を守る長尾防災福祉コミュニティとの合同夏期訓練が実施されました。

消防団員活動の基本となる規律訓練が始まり、見ているだけでもしんどくなりますが、猛暑の中、団員は顔を締めく大きな声を出しきびきびした動きを披露します。

それが終われば、全分団での中継送水訓練、各分団のプライドを懸けた小型動力ポンプ操法訓練と続き、これと並行して長尾防災福祉コミュニティが消火器を使用した消火訓練、AEDを使用した応急手当や救急処置、大雨に備えた土のう工法等の訓練を

実施しました。

訓練合間の休憩時はさすがに猛暑がこたえたのか、日頃の運動不足がこたえたのかわかりませんが、疲れきった様子で水分補給をしている中、全く疲れた様子を見せない今年入団した新進気鋭の2人の団員が光っていました。

夏の時期、新入団員を対象とした研修が神戸市の消防学校でおこなわれますが、その事前研修として消防署員がマンツーマンで規律訓練、ロープ結索、筒先・ホースの取り扱いなどを教えることになりました。聞きなれない言葉や表現、やったことのない動作の数々を一度教えただけですぐに身に付けてしまい、指導していた職員が思わず「長尾のどこにあんなすごい人材がいたのか？誰がどこでスカウトしてきたのか？」としきりに考え込んでいました。

最後に少し早い話ですが、北消防団長尾支団が平成34年に出場する第29回兵庫県消防操法大会の強化選手に指名しては？

（北消防署消防団担当 生田恵士）



地域に根付いた消防団を目ざしています！

～地域住民の安全・安心を確保するために～



神戸市消防局
神戸市消防団

